

第10回宇宙開発委員会（定例会議）
議 事 次 第

1. 日 時 平成8年4月17日（水）
14:00～16:00
2. 場 所 委員会会議室
3. 議 題 (1) 前回議事要旨の確認について
(2) GPSを巡る最近の動向について
(3) 海洋観測衛星1号b (MOS-1b)の運用終了について
(4) H-II Aロケットの検討状況について
(5) H-IIロケット4号機による地球観測プラットフォーム技術衛星 (ADEOS)及びM-Vロケット1号機による第16号科学衛星 (MUSES-B)の打上げに係る安全の確保に関する調査審議について
4. 資 料 委10-1 第9回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委10-2 GPSを巡る最近の動向について
委10-3 海洋観測衛星1号b (MOS-1b)の運用終了について
委10-4 H-II Aロケットの検討状況について
委10-5 H-IIロケット4号機による地球観測プラットフォーム技術衛星 (ADEOS)及びM-Vロケット1号機による第16号科学衛星 (MUSES-B)の打上げに係る安全の確保に関する調査審議について（案）

第9回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨（案）

1. 日時 平成8年4月10日（水）
14:00～15:15
2. 場所 委員会会議室
3. 議題
 - (1) 前回議事要旨の確認について
 - (2) 日米宇宙損害協定附属書改訂について
 - (3) 統合地球観測戦略(IGOS)に関する地球観測衛星調整会議特別会合の結果について
 - (4) 日/E S A行政官会合アド・ホックワーキンググループミーティングの結果について
 - (5) 向井宇宙飛行士のニューロラブ計画へのロード・マップチャリット決定について
4. 資料

委9-1	第8回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委9-2	日米宇宙損害協定附属書改訂について
委9-3	統合地球観測戦略(IGOS)に関する地球観測衛星調整会議特別会合(CEOS)の結果について
委9-4	日/E S A行政官会合アド・ホックワーキンググループミーティングの結果について
委9-5	向井宇宙飛行士のニューロラブ計画へのロード・マップチャリット決定について
5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理	野 村 民 也
宇宙開発委員会委員	山 口 開 生
"	末 松 安 晴
"	長 柄 喜 一 郎

関係省庁	
外務省軍備管理・科学審議官	河 村 武 和（代理）
文部大臣官房審議官（学術国際局担当）	中 西 鈞 治 "
郵政大臣官房技術総括審議官	岡 井 元 "

事務局	
科学技術庁長官官房審議官	間 宮 馨
科学技術庁研究開発局宇宙政策課長	林 幸 秀 他
6. 議事
 - (1) 前回議事要旨の確認について
第8回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（資料委9-1）が確認さ

れた。

(2) 日米宇宙損害協定附属書改訂について

事務局より、資料委9-2に基づき、日米宇宙損害協定附属書について、同協定において、新たなプログラムを協定の対象とする場合には、同協定附属書に当該プログラムを追加することとなっており、今回、新たに放射線実時間計測装置(RRMD)計画、微小重力科学実験室(MSL)計画、神経科学実験室(NEUROLAB)計画を追加することとなり、4月3日(水)(日本時間4月4日)に日米間において公文の交換が行われたとの説明が行われた。

これに関し、委員より、日米間の今後の協力プロジェクトの追加についても引き続き検討を進めるようにとの発言があった。

(3) 統合地球観測戦略(IGOS)に関する地球観測衛星調整会議特別会合の結果について

事務局より、資料委9-3に基づき、平成8年3月27日(水)~29日(金)まで米国シアトルで開催された統合地球観測戦略(IGOS)に関する地球観測衛星調整会議(CEOS)特別会合について、①IGOS構想の実現についてCEOSとして宇宙部分の貢献を通じて支持するべきであることをCEOS全体会合に提言すること、②IGOS構想の展開のために各国・国際機関のハイレベルの政治的支持が必要であること、③IGOS構想の中で特に人工衛星を中心とした観測についてはCEOSが中心になるとともに、地上系の観測については他の場を設定して議論を進めていくこと等の結論が出された、との説明が行われた。

これに関し、委員より、今後とも米国等との間で情報交換を密にして、地球観測分野での協力を前向きに検討していくことが必要である旨の発言があった。

(4) 日/E S A行政官会合アド・ホックワーキンググループミーティングの結果について

事務局より、資料委9-4に基づき、平成8年4月3日(水)~4日(木)までE S A本部(パリ)で開催された日/E S A行政官会合アド・ホックワーキンググループミーティングについて、①宇宙ステーション、宇宙輸送、応用衛星技術、地球観測及び月/惑星探査に関するアド・ホックワーキンググループを設置し、各プログラムの協力の可能性を検討すること、②検討結果を6月開催予定の日/E S A行政官会合に報告すること等の結論が出された、との説明が行われた。

(5) 向井宇宙飛行士のニューロラブ計画パイロード・スペシャリスト決定について

事務局より、資料委9-5に基づき、宇宙開発事業団の向井宇宙飛行士が、NASAにおいて1998年に打上げが予定されているスペースシャトル「コロンビア」号を用いた神経科学実験室(NEUROLAB)計画のパイロード・スペシャリスト(搭乗科学技術者)として選定された旨の説明が行われた。

以上